



## 教育研究論文・学校部門 2部門で最優秀賞を受賞！

(財)日本教育公務員弘済会鹿児島支部主催平成23年度教育研究論文において、中沖小学校の島子孝一校長の論文『活力あるふるさとづくりに自ら貢献しようとする郷土愛に満ちた子どもの育成』が最優秀賞を受賞しました。また、『中沖キッズ地域盛り上げ隊』の取り組みが学校部門において最優秀賞を受賞しました。

これらは、昨年20年ぶりに復活した『中沖地区の夏祭り』などの子どもたちによる地域おこし活動が評価されたものです。

島子校長は「地域の子どもたちの積極性が頼もしい。地域の活性化につながれば」と話されました。



▲受賞報告に訪れた島子孝一中沖小学校長  
(写真中央)



## 卒業記念に陶芸教室！ 松山正文さん

2月15日(水)、陶芸教室を営む松山正文さんは、野方小学校6年生の生徒13名を招いて自宅の工房で卒業記念に皿を製作する陶芸教室を行いました。

今回で2回目となるこの教室では、素焼きを終えた皿を紙やすりで軽くこすり、表面や角の部分を滑らかにし、噴霧器で上薬を塗り仕上げました。

松山さんは、丁寧に指導しながら、「陶芸の楽しさ」や「ものづくりの楽しさ」を伝えていました。

生徒たちは、「噴霧器で色を塗るのが楽しかった。」「とてもよい記念になった。」と大喜びでした。

完成した皿は、工房の窯で1200度の温度で12時間本焼きをして、卒業式には、展示する予定だそうです。



▲生徒に噴霧器の使い方を教える松山正文さん



## 子ども達を守る！ 子どもの育ちを考える学習会

2月3日(金)、中央公民館において『大崎町の子どもたちの育ちを考える学習会』が開催され、保育士、学校教諭など約120名が集いました。

鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科 土岐篤史准教授を講師に迎え『子どもたちを守る早期発達支援』と題した講話が行われました。

講話では、「発達の困難があっても育てることが尊ばれ、個人の抱える問題が自己責任とならないよう、地域のなかで安心して子どもを育てることができる環境をつくっていくことが大切」と話されました。

参加された方からは、「現場の者がしっかり専門性をもって子どもを理解し、受けとめる大切さを痛感した」などの感想が聞かれました。



▲子どもたちの発達支援について講話する鹿児島大学大学院の土岐篤史准教授